千葉県・千葉市教員等育成指標の６つの柱に対応するキャリアステージごとの目標

六つの柱	構成要素	千葉県・千葉市教員等育成指標	ステージⅠ【成長期】 （学級経営、担当教科指導等） *学級・教科担任等として*の自覚と実質能力の向上	ステージⅡ【発展期】 （学年経営、校務分掌主任等のミドルリーダー） *ミドルリーダーとして*の自覚と実質能力の向上	ステージⅢ【充実期】 （学校運営等、職員全体へ指導・助言） *「チーム学校」をリードする*自覚と実質能力の向上
教職に必要な素養	○コンプライアンス ・服務規律の遵守 ・高い倫理観 ○使命感 ○責任感 ○教育的愛情	教員としての職務に対する使命感、責任感、教育的愛情を持ち、教職に対する強い情熱を持っている。また、教育公務員として高い倫理観と不祥事根絶への意識を持ち、服務規律を遵守し、公正に職務を遂行している。	○コンプライアンスについて理解し、不祥事根絶の意識をもっている。 ○教育公務員としての使命と責任を理解し、情熱と教育的愛情をもって学級経営や教科指導を行っている。 ○教育公務員としてのマナーや適切な言動・態度を心がけ、誠実かつ公正に職務を遂行している。	○不祥事根絶等コンプライアンスを常に意識し、学年経営等で意識を高められるよう発信することができる。 ○教育公務員としての使命と責任を理解し、学年経営でリードすることができる。また、計画的・効率的な職務遂行の重要性について、校内で積極的に発信している。 ○教育公務員としてのマナーや適切な言動、態度等について校内で積極的に発信し、教職員間で意識を高めるために率先して行動している。	○定期的にコンプライアンスの意識を図る対策を講じることができる。 ○教育公務員としての使命と責任、法令等に対して豊かな知識と経験をもち、「チーム学校」をリードする立場として、課題を発見し、進んで改善することができる。 ○教育公務員として使命と責任を自覚し、教職員の規律確保・管理ができる。
	○危機管理能力		○安全な教育環境の整備について、基本的な知識を身に付けている。 ○危機管理マニュアル等に基づき、事案発生時の対応方法について理解している。	○危機管理マニュアル等に基づき、危機を予測して未然防止を図るとともに、事案発生時には連絡・調整役として迅速に行動できる。	○危機管理マニュアル等に基づき、校内の危機管理体制を点検し、事故等の未然防止に向けて周囲に具体的な指示や助言を与えることができる。
	○社会性 ○コミュニケーション能力 ○豊かな人間性	豊かな人間性や人権意識をもち、児童生徒、家庭や地域住民等、教職員間で円滑なコミュニケーションを取り、信頼関係を築くことに努めている。 ○家庭・地域、関係機関との連携の大切さを理解し、学級経営や教科指導に生かすことができる。 ○ワーク・ライフ・バランスの視点をもち、教育活動を展開することができる。	○豊かな人間性や人権意識をもち、児童生徒、家庭や地域住民等、教職員間で円滑なコミュニケーションを取り、自らの意見も効果的に伝えつつ、信頼関係を築くことに努めている。 ○家庭・地域、関係機関との連携の大切さを理解し、学級経営や教科指導に生かすことができる。 ○ワーク・ライフ・バランスの視点をもち、教育活動を展開することができる。	○児童生徒、家庭、教職員間で円滑なコミュニケーションを取り、自らの意見も効果的に伝えつつ、信頼関係を築くことに努め、家庭・地域、関係機関と連携を進んで行うことができる。 ○コミュニケーション能力を発揮し、教職員の連携を深め、教育課題に対する組織的な対応に貢献することができる。 ○ワーク・ライフ・バランスの視点をもち、教育活動をよりよく展開することができる。	○学校の教育力を高めるために、家庭・地域、関係機関等と連携・協働を円滑に行うことができる。 ○コミュニケーションの機会を重視し、教職員間で常に連携できるよう中心となって積極的に取り組み、風通しのよい職場環境づくりに努めることができる。 ○ワーク・ライフ・バランスの視点をもつとともに、教職員に指導・助言し、よりよく教育活動を展開することができる。
	○社会の変化への対応 ○広い視野 ○学び続ける意欲	教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探求心を持ちつつ自己のあり方や継続的に新しい知識・技能を学び続けている。	○教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、研修や研究会等に積極的に参加し、自己の資質能力を高めている。 ○校内外の研修会において、主体的に学び、自己の課題を把握・解決するように努めている。 ○自己の指導力を高めるために、教育実践や研究記録を積極的に公開し、他者からの助言を受け改善することができる。	○研修や研究会等で得た情報や知識を、教職員間で共有し、教職員全体の意識が高まるよう努めている。 ○自己の教育実践を振り返り、課題を分析したキャリアプランを立て、今後の教育活動をマネジメントしていなど自己研鑽に努めている。 ○メンターとしての意識をもち、経験の浅い教員の指導・助言等ができる。	○組織マネジメント力や教職員の指導力育成に関することなど、広く学校運営に関わる研修を受講し、偏常的に自己研鑽することができる。 ○自校の自己評価・他者評価から得た課題に対して、国や本市の動向・教育関連施策等、必要な情報を収集・発信し、教職員が一丸となって解決できるよう働きかけている。
	○教職に関する 教養	教育に関し、社会的・制度的事項やその意義、歴史等について理解するとともに、最新の動向に関し情報を収集している。	○教育に関し、社会的・制度的事項やその意義、歴史等について理解するとともに、専門的な知識・技能の修得や最新の動向に関し情報収集に努めている。	○最新の教育課題を敏感に捉え、専門的な知識・技能を活用しながら、学校体制の中核として組織的に対応することができる。	○教育に関わる最新の動向について常に情報収集し、校内外研修の講師を務めるなど、教職員へ情報提供や共通理解を図ることができる。
学習指導に関する実践的指導力	○教科等についての専門性	各教科等において それぞれの特質に応じた見方・考え方を働かせながら、資質能力を育むために必要となる各教科等の専門性を身に付け、それを生かした授業の実践に努めている。 ○校内研究や校外の授業研究会に積極的に参加し、常に教科指導等における専門性の向上に努めている。	○各教科等においてそれぞれの特質に応じた見方・考え方を働かせながら、資質能力を育むために必要となる各教科等の専門性を身に付け、それを生かした授業の実践に努めている。 ○校内研究や校外の授業研究会に積極的に参加し、常に教科指導等における専門性の向上に努めている。	○研修等を通じて、より質の高い専門的な教科指導の手法を習得し、実践に励んでいる。 ○授業実践において範を示すとともに、他の教員の授業改善に向けた指導や助言等を率先して行うことができる。	○最新の教育課題に対応するため、常に教科等に関する専門性を高めることができる。 ○校内外の教科研究の中心となり、他の教職員に指導・助言をすることができる。
	○授業実践 ○指導技術	子供の心身の発達の過程や学習過程に関する理解に基づき、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、学習者中心の授業実践の創造に努めている。	○家庭・地域や児童生徒の実態を把握し、課題解決的な学習を展開することを意識している。 ○児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、学習者中心の授業実践の創造に努めている。	○教科主任等として学校全体の教科指導や教科等横断的な指導を意識して教科経営をすることができる。 ○児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、学習者中心の授業実践を推進している。	○最新の指導理論や指導技術を身に付けるよう努め、実践力を高めることができる。 ○児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、学習者中心の授業実践について、的確な指導・助言を行うことができる。
	○カリキュラム ・マネジメント		○カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、単元・題材など内容や時間のまとまりの中で、習得・活用・探究のバランスを工夫し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に努めている。	○教育課程全体を見渡し、教科等横断的な学習の指導・助言ができる。 ○地域の材・人材等を生かし、特色ある教育活動や体験的な活動の授業実践の創造を推進している。	○教科等横断的な視点や教育課程の評価、人的・物的な確保等の観点をもって学年や学校の実態に応じて改善することができる。
生徒指導等に関する実践的指導力	○子供の発達過程や特徴の理解と信頼関係の構築 ○生徒指導	子供の心身の発達の過程や特性を理解し、一人一人の状況を踏まえながら、子供との信頼関係を構築するとともに、可能性や活躍の場を引き出す集団作り（学級経営）をしている。	○児童生徒一人一人の心身の発達の過程や特性、生活環境等を多面的に捉え理解し、個人間関係を構築するとともに、個に応じた指導と可能性や活躍の場を引き出す集団指導を行っている。 ○千葉市における生徒指導上の課題を把握し、未然防止、早期発見、即時対応に努められるよう、学年間・校内で情報共有を図っている。	○生徒指導上における個別指導、集団指導の指導原理を理解し、家庭・地域等との連携、教職員の多様な専門性を生かした学年や学校全体の生徒指導方針の決定、他の教職員に対する指導・助言を行うことができる。 ○生徒指導上の課題等の未然防止、早期発見対応、困難課題対応、再発防止を組織的に推進するとともに、緊急事態発生時の対応について、中核的な役割を担い、迅速かつ組織的に対応できる。	○組織的、計画的に生徒指導を行うために、学校全体の指導方針の決定や、学年間の調整を行うことができる。 ○地域・専門機関との連携の中心となり、進めることができる。 ○リーダーシップを発揮し、生徒指導上の課題等の未然防止、早期発見対応、困難課題対応、再発防止を組織的に推進するとともに、緊急時には迅速かつ的確に判断し、適切な指示を出し、チームを機能させることができる。
	○教育相談 ○個別指導	教育相談の意義や理論を理解し、子供一人一人の課題の解決に向け、個々の悩みや思いを共感的に受け止め、園・学校生活への適応や人格の成長への支援をしている。	○教育相談の基本的な考え方や活動の体制（校内体制）について理解している。 ○児童生徒理解（アセスメント）に基づき、個々の悩みや思いを共感的に受け止め、その思いに寄り添った学校生活への適応や人格の成長への支援に努めている。	○児童生徒を取り巻く状況を、広い視野から捉え、深く理解し、その思いに寄り添った対応に努めている。 ○学年等での情報共有と指導方針の周知、管理職・他学年との連絡・情報共有、他の教職員に対する指導・助言等を行い、適切な支援の方向性を立案することができる。	○児童生徒・家庭と信頼関係を構築し、集団の掌握と適切な指導を行うとともに、学校全体の指導方針の決定や学年間の調整を行うことができる。 ○地域・専門機関との連携の中心となり、進めることができる。
	○人権教育の推進 ○生徒指導上の課題への対応	人権教育の理念のもと、いじめ、不登校、情報モラル等生徒指導上の課題に対し、他の教職員、保護者、関係機関等との連携を図りながら、子供に対し適切に指導している。	○児童生徒一人一人の人権を尊重し、意識して指導することができる。 ○日常的な児童生徒の観察等を通して、いじめ、不登校、情報モラル等生徒指導上の課題を早期に発見し、家庭、教職員間、SCやSSW等、関係機関との連携を図りながら、適切な対応に努めている。 ○いじめ、不登校、情報モラル等の生徒指導上の課題に対して正確に状況を把握し、教職員や管理職に速やかな報告、連絡、相談、報告をすることができる。	○中・長期的・広域的視野から、人権教育を推進することができる。 ○いじめ、不登校、情報モラル等生徒指導上の課題に対して適切に対応するとともに、学年等での情報共有と指導方針の周知、管理職・他学年との連絡及び情報共有、他の教職員に対する指導・助言等を行うことができる。	○教職員一丸となって人権教育に取り組むよう、リーダーシップを発揮することができる。 ○いじめ撲滅に向け、常に情報収集し、適切な対策や未然防止、再発防止を組織的、かつ積極的に推進することができる。 ○地域や専門機関との連携を図りながら、教職員に対して指導・助言を行うことができる。
	○キャリア教育 ○進路指導	キャリア教育や進路指導の意義を理解するとともに、県の産業構造等を把握し、地域・社会や産業界と連携しながら、園・学校の教育活動全体を通じて、子供が自分らしい生き方を実現するための力を育成している。	○キャリア教育や進路指導の意義を理解し、児童生徒のキャリア発達の視点に立ち、系統性を考慮した授業展開や体験活動の充実に努めている。（キャリア・パスポートの活用等）。 ○地域・社会や産業界との連携を意識し、教育活動全体を通じて、児童生徒が自分らしい生き方を実現するための力の育成に努めている。	○児童生徒の発達段階や特性を考慮し、組織的・計画的な進路指導やキャリア教育全体計画（グランドデザイン）を立案し、チームとして実践することができる。 ○地域・社会や産業界と連携しながら、教育活動全体を通じて、児童生徒が自分らしい生き方を実現するための力を育成することができる。	○幼保・小・中・高との連携を図りながら、学校や学年としての進路指導やキャリア教育の指導計画を整備するとともに、常に評価・改善を重ねることができる。
チーム学校を支える資質能力	○教育課程の管理・運用	カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、教科等横断的な視点や教育課程の評価、人的・物的な体制の確保・改善等の観点を持って、組織的かつ計画的に教育課程を編成・実施し、常に園・学校の実態に応じた改善をしている。	○編成された教育課程を理解し、確実に実施するとともに、改善に対しての参画意識をもっている。 ○カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、教科等横断的な視点を大切にするとともに、児童生徒の実態を踏まえた効果的なカリキュラムの工夫・改善を行い、校内行事等、日々の教育活動に参画意識をもって取り組んでいる。	○カリキュラム・マネジメントの視点から、教育課程や人的・物的な体制の活用状況を、確保・改善の観点をもって常に見直し、校内の推進役として学校の実態に応じた教育課程に改善することができる。	○カリキュラム・マネジメントの視点から地域や学校の実態を踏まえ、「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、指導・助言を行うことができる。 ○学校評価等の結果を用いて、常に教育課程の実施状況を確認し、改善に向け学校を牽引することができる。
	○校務分掌と連携・調整	学校組織マネジメントの意義を理解した上で、限られた時間や資源を効率的に用いつつ、学校運営の持続的な改善を支えられるよう、役割に積極的に参画し組織の中で自らの役割を果たしている。	○学校教育目標を理解し、学級経営や教科経営の方針を立て、計画的に指導を行っている。 ○教育課題等への対応について、学年や関係職員と連携して取り組むように努めている。 ○学校運営の特徴の改善を支える意義について理解し、校務に積極的に参画するとともに、組織の中で自らの役割を果たそうとしている。	○担当する学年や分掌の主任として、教職員との合意形成を図り、計画的・組織的に職務を推進することができる。 ○教育課題等への適切な対応のために、多方面から情報を収集し、効果的な方法を教職員間で共有することができる。 ○学校組織マネジメントの意義を理解した上で、限られた時間や資源を効率的に用いつつ、学校運営の持続的な改善を中心となって支えられるよう、校務に積極的に参画し、組織の中で自らの役割を果たすことができる。	○現状の成果と課題を基に、校内人材を適材適所で活用し、教職員との連携・協働により効果を上げることができる。 ○学校組織マネジメントの意義を理解した上で、教職員全体の状況を把握し、一人一人の能力や特性を生かした協働的な組織づくりができる。
	○家庭や地域、関係機関等との連携・協働	家庭や地域、就学前から高等教育までを通した異校種間及びその他の関係機関との連携・協働に努め、地域とともにある学校づくりに取り組んでいる。	○家庭・地域、関係機関等の役割を理解し、連携・協働に努め、地域とともにある学校づくりのために、日常の実践を進めている。	○家庭・地域、関係機関等との関わりを深め、連携・協働するための方策を立案し、連絡調整に携わるなど、地域に開かれた学校づくりに積極的に取り組むことができる。	○学校における教育課程の理念や情報を、家庭・地域、関係機関等に広く発信し、地域の人的・物的資源の情報を得て整備したり、連携を図ったりしながら、「社会に開かれた教育課程」の編成を実現することができる。
	○研修（研究）体制	研修履歴の記録を基に、自らの学びを振り返り、研修（研究）における成果と課題を把握するとともに、教員としての資質能力の向上を図るために必要な研究と修養に努めている。また、校内研修を教員同士の学び合いの機会として捉え、積極的に参加している。 ○研修履歴の記録を基に、自らの学びを振り返り、研修における成果と課題を把握するとともに、資質能力の向上を図るために必要な研究と修養に努めている。	○学校や千葉市における教育課題を把握し、研究と修養に努め、課題解決のために取り組むことができる。 ○校内研修を教職員同士の学び合いの機会として捉え、積極的に参加している。 ○校内研修での授業実践や参観に積極的に取り組み、日々授業力を高めようとしている。 ○研修履歴の記録を基に、自らの学びを振り返り、研修における成果と課題を把握するとともに、資質能力の向上を図るために必要な研究と修養に努めている。	○最新の教育課題を敏感に捉え、教育課題の解決に向け、向上心を持ち、主体的に学び続けることができる。 ○常にメンターとして意識するとともに、校内研修の企画・運営、授業実践、他の教職員に対する指導・助言等に積極的に取り組むことができる。 ○研修履歴の記録を基に、研修における成果と課題を把握し、資質能力の向上を図るための自律的な研修受講に努めている。また、他の教職員に発信している。	○学校経営方針の具現化や組織マネジメント、教職員の資質向上を図り、信頼ある学校を目指して主体的に学び続けることができる。 ○国や千葉市の動向を踏まえ、学び合い高め合う学校の構築に向け、ミドルリーダーの育成を図るとともに、校内外の研修で積極的に教職発信をすることができる。 ○研修履歴の記録を基に、研修における成果と課題を把握し、常に自己研鑽に努めるとともに、資質能力の向上を図るための自律的な研修受講を推奨している。
特別な配慮や支援を必要とする子供への対応	○特別な配慮や支援を必要とする子供の（特性等の）理解	特別な配慮や支援を必要とする子供の特性等を理解し、きめ細かく受け止めるために、子供一人一人の教育的ニーズを把握している。	○合理的配慮の考えに基づいた児童生徒一人一人の教育的ニーズを理解するよう努めている。 ○家庭との合意形成を図り、他の教職員と連携しながら個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成を行っている。 （「何ができるようになるか」「目指す資質能力」を設定し、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」具体的な指導計画を設定する。）	○合理的配慮の考えに基づいた児童生徒一人一人の教育的ニーズを理解するよう努めている。 ○家庭との合意形成を図り、他の教職員と連携しながら個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成を行っている。 （「何ができるようになるか」「目指す資質能力」を設定し、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」具体的な指導計画を設定する。）	○合理的配慮の考えに基づいた児童生徒一人一人の教育的ニーズを理解するよう努め、教職員に対して助言を行っている。 ○家庭との合意形成を図り、他の教職員と連携しながら個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成を行っている。 （「何ができるようになるか」「目指す資質能力」を設定し、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」具体的な指導計画を設定する。） ○個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成に際し、教職員に対して指導・助言を行っている。
	○学習上の支援と生活上の支援（学習上・生活上の支援方法の工夫）	他の教職員、保護者、関係機関等と連携しながら、特別な配慮や支援を必要とする子供の教育課程の編成について適切に対応し、誰一人取り残すことのない個別最適な学びの実現を図っている。また、状況に応じた生活上の支援を工夫している。	○個別の指導計画や個別の教育支援計画に基づき、個々の実態に応じた「個別最適な学び」の実現を図ることができるよう、継続的に学習上の支援・指導方法を見直し、改善に努めている。（PDCAサイクルの実現、心理検査等の活用） ○個別の指導計画や個別の教育支援計画に基づき、基本的な生活習慣や集団生活をするうえで必要な内容について理解し、児童生徒一人一人の特性や背景に応じた生活上の支援・指導に努めている。（心理検査等の活用）	○個別の指導計画や個別の教育支援計画に基づき、個々の実態に応じた「個別最適な学び」の実現を図ることができるよう、継続的に学習上の支援・指導方法を見直し、改善している。（PDCAサイクルの実現、心理検査等の活用） ○個別の指導計画や個別の教育支援計画に基づき、基本的な生活習慣や集団生活をするうえで必要な内容について理解し、児童生徒一人一人の特性や背景に応じた生活上の支援・指導をしている。（心理検査等の活用）	○個別の指導計画や個別の教育支援計画に基づき、個々の実態に応じた「個別最適な学び」の実現を図ることができるよう、継続的に学習上の支援・指導方法を見直し、改善している。（PDCAサイクルの実現、心理検査等の活用） ○個別の指導計画や個別の教育支援計画に基づき、基本的な生活習慣や集団生活をするうえで必要な内容について理解し、児童生徒一人一人の特性や背景に応じた生活上の支援・指導をしている。（心理検査等の活用） ○個別の指導計画や個別の教育支援計画に基づいた学習上・生活上の支援についてPDCAサイクルで見直しながら、他の教職員に対し、指導・助言を行うことができる。
	○組織的な対応のための知識と支援方法の習得		○個別の指導計画や個別の教育支援計画を基に、学年内の教職員と状況を把握・共有するとともに、学年や学校全体として実態に応じた指導・支援体制の工夫に努めている。 ○児童生徒一人一人の特性や背景に応じて、関係機関と連携を図りながら、組織的・継続的な校内支援体制の構築に努めている。	○個別の指導計画や個別の教育支援計画を基に、学年内の教職員と状況を把握・共有するとともに、学年や学校全体として実態に応じた指導・支援体制を工夫している。 ○児童生徒一人一人の特性や背景に応じて、関係機関と連携を図りながら指導方針を決定し、組織的・継続的な校内支援体制の構築に努めている。	○個別の指導計画や個別の教育支援計画を基に、学年内の教職員と状況を把握・共有するとともに、学年や学校全体で実態に応じた指導・支援体制を工夫している。 ○児童生徒一人一人の特性や背景に応じて、関係機関と連携を図りながら指導方針を決定し、組織的・継続的な校内支援体制の構築を図っている。
ＩＣＴや情報・教育データの利活用	○学習指導に関するICT利活用	学校におけるICT利活用の意義を理解し、学習指導等にICTを効果的に活用するとともに、子供の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための授業を実践している。	○学校におけるICT利活用の意義を理解し、基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、授業のねらいを意識しながら、ICT活用指導力を高めることができる。 ○児童生徒の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するために必要な知識や態度を発達段階に応じて継続的に指導することができる。 ○ICT機器操作（オンライン配信含む）に積極的に関わり、率先してスキルアップに努めている。	○学校におけるICT利活用の意義を理解し、実践事例を蓄積するとともに、他の教職員に効果的な活用を広めたり、他の教職員の積極的な取組を推進したりしている。 ○各教科等の指導において、単元全体を見通した授業計画に情報活用能力（情報モラルを含む）の育成を位置付けて指導することができる。 ○ICT機器操作（オンライン配信含む）に積極的に関わり、教職員の中心となって全体のスキルアップに努めることができる。	○教職員のICT活用指導力を把握し、校内研修を行ったり、一人一人の実態に合わせた助言をしたりして、教職員の指導力を高めることができる。 ○児童生徒の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するために、保護者や地域、関係機関と連携しながら継続的・体系的な指導を推進することができる。 ○ICT機器操作（オンライン配信含む）に積極的に関わり、教職員と連携してスキルアップに努めることができる。
	○生徒指導に関するICT利活用	教育相談、いじめや不登校等の対応、子供の特性に応じた支援等にICT（遠隔・オンライン教育を含む）を効果的に活用している。	○教育相談、いじめ・不登校等の対応、特別支援教育等において、児童生徒の状況に応じた支援としてのICTの利活用について、他の教職員と連携して行うことができる。	○教育相談、いじめ・不登校等の対応、特別支援教育等について、児童生徒の状況に応じた教育機会の保障や、個別指導・集団指導におけるICTの効果的な活用を教職員の中心となって関係機関との連携を率先して行うことができる。	○教育相談、いじめ・不登校等の対応、特別支援教育等におけるICTの利活用について、教職員と情報共有を行い、状況に応じた支援についての指導・助言ができる。
	○ICTによる校務効率化	ICTは学校教育を支える基本的なツールとして必要不可欠なことを理解し、教育データの蓄積・分析・利活用等を通して、校務の効率化を進めている。	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、児童生徒の学習の改善を図るため、教育データの適切な活用に努めている。 ○情報モラル（内容や必要性等）について理解し、常に意識しながら自身の情報活用能力やデータリテラシーの向上を図っている。 ○児童生徒のスタディ・ログを適切に扱い、児童生徒の評価及び日々の授業改善に役立てることを意識している。 ○学校教育を支える基本的なツールとしてのICTを理解し、校務の効率化に向けたICTの利活用を図ることができる。	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、児童生徒の学習の改善を図るため、教育データの適切な活用について他の教職員に発信することができる。 ○情報モラル（内容や必要性等）について理解し、他の職員と常に連携しながら、情報活用能力やデータリテラシーの向上を図っている。 ○児童生徒のスタディ・ログを適切に扱い、児童生徒の評価及び日々の授業改善に役立てることができる。 ○校務の効率化に向けてICTを活用した資料や効率的に行える仕組みを作り、提案することができる。	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、児童生徒の学習の改善を図るため、教育データの適切な活用について助言することができる。 ○情報モラル（内容や必要性等）の醸成と情報活用能力やデータリテラシーの向上に向けて、教職員の必要感に応じた具体的な提案や助言を行うことができる。 ○児童生徒のスタディ・ログを適切に扱い、児童生徒の評価及び授業改善の指導・助言ができる。 ○校務の効率化及び学校の情報化に向け、広い視野で教育課程を見直し、ICT機器の利用を促進することができる。

※対象：副校長・教頭・主幹教諭・教諭・講師とする